

6月の園だより

暑くなってきました

寒暖差があり、涼しい日もあれば夏のような暑い日もあります。園では日ごろ外遊びをしていますが、急激な暑さはまだ体が慣れていないので水分をとったり、日陰に入ったり、体を水で冷やしたりしています。お家では食事・睡眠をしっかりとり、元気に過ごせるよう配慮をお願いします。

明日はプール開きです。準備にプール掃除をして、お水に触れるとみんな気持ちよさそうでした。お水は気持ちよかったり楽しいのですが、危険も伴います。プール開きではお水の神様に、みんなが安全にプール遊びができるように、お米・塩・お酒をまいてお清めをし、職員も気を引き締めていきます。



花の種・球根を植える 野菜の苗を植える

プランターの花を新しくするために、土作りをしました。プランターをひっくり返し固まっている土も、子どもたちが手でほぐし広げ、日に当ててふるいにかけ新しい培養土を足していくと柔らかい土になります。固い土と柔らかい土の違いを子どもは自分の手の感触で知ります。今回はゼフィランサス・リアトリス・グラジオラスの球根、ひまわり・センニチコウ・サルビアの種を蒔きました。畑にはきゅうり、トマト、ピーマンなどの苗を植えました。

毎年繰り返している花植えや野菜植えです。子どものお花や野菜を大事にする気持ちも育ってきていると感じます。先日、2歳つき組のそうちゃんがすいかの苗に近づいていくので見ていると、腰をかがめ手で優しく葉に触れてながめ、その後プレートをとって確かめて差しなおしていました。その姿は優しく落ち着いていてゆったりとしていました。大人のしていることや姿からどういうことをするのか学んできているんだと感じました。また、りく君は園庭のタイサンボクの葉っぱを見つけ担任に届け、「これから花が咲くんだよ」と教えてくれました。葉っぱから花は咲かないことは分かっていますが担任はその気持ちを受け瓶に飾ってくれました。

私たちはそういう自然から受ける優しい気持ち、小さいものにも目を向けることを大切に育てていきたいと思えます。園庭で何気なく毎日目にしてているものが、子どもたちの気持ちを育てる環境になっていることを忘れずにいたいと思えます。



こいのぼり祭り

園庭に大きなこいのぼりと子どもの作ったこいのぼりを飾りました。お天気も良く、朝からみんな笑顔でした。

各学年ごとにトンネルくぐりや、こいのぼりを持って走ったり、よもぎしょうぶ(わらべうた)などをしました。

愛育会でお餅つきもしていただき、つくたてのお餅はきな粉とみたらし味でとてもおいしかったです。ありがとうございました。後日、菖蒲の葉をいただきました。葉はさわやかな香りがして悪いものがこないんだよと言うと、子どもたちは鼻に当てて「いいにおい」と嗅いでいました。



ツバメのひながかえりました

連休明け、巣の下に卵の殻が落ちているのを子どもたちが見つめました。ひながかえったのかなーと思っていると、1週間後には産毛のひなの頭がいくつか見えるようになりました。今は親鳥が忙しく餌を運んでいます。5月29日すっかりツバメらしく黒い羽根になり、大きくなって巣にみんなが入っているのが窮屈そうです。今にも巣から落ちてしまいそうなくらいです。

*ある晴れた朝、子どもたちがじっと木の葉っぱをながめていました。その横で大人もながめていました。「あった！」見ると葉っぱの上にとくさんの卵。「何の卵だろう」「きっとてんとう虫だよ」さっそく調べに部屋に戻って行きました。その下では小さいお友だちが有りの行方を真剣に追っていました。

初夏の木々が萌えるこの季節、小さな研究者たちは今日も忙しそうです

